

TORE 理論を元にしたトレーニングを継続する中で見えてきたこと

(株) グローバルネイチャークラブ 西谷香奈

1. インタープリテーションとの出会い

伊豆大島に住み始めてから 20 年間は、ダイビングのガイドとして働いていた。30 年前、休暇で訪れた屋久島で、小原比呂志さんのガイドを受け、その面白さに衝撃を受けた。小原さんが、森の木々の生き方を人間の生き方と重なるように案内してくれたからで、今思えばそれが、最初のインタープリテーションとの出会いだった。

2. 陸のガイドからジオパークのガイドへ

いつか陸ツアーを仕事にしてみたいと思いながら時がすぎ、2009 年大島町のネイチャーガイド養成に関わったのをきっかけに、ダイビングの店に陸ツアーの部門を立ち上げた。

2010 年ジオパークの現地審査で「ないものねだりではなく、あるもの探し」という地域資源を大切にしたい理念に触れて、「仲間がいた」と感動。しかし全国のジオパークには、プロで食べているガイドはほとんどおらず、難しい地学の話を一方向的に話すガイドが多くて、旅行業に関わる人からは「ジオツアーは、15 分以上はしないほうが良い」と言われたほどだった。

3. 各地のジオパークでガイド講習

ガイドを本業にしている人が少なかったため、日本ジオパークネットワーク (JGN) の全国大会の分科会や、様々なジオパークに呼ばれてガイドについて話す機会があった。JGN の

全国大会で「私たちのめざすガイド像 2015 in 霧島」を作成したり、ガイド講習で、グループでツアーを作ったりするなど、いろいろな取り組みをしたが、「難しい地学の話を一方向的に話す」ガイドは減らず、有料ガイドもごく少額で実施するジオパークが多かった。

このころは私自身も、本（「インタープリタートレーニング」ナカニシヤ出版）を読んだり、伊豆大島のジオガイド養成講座で、2016 年に古瀬浩史さん、2019 年に増田直広さんの講義を受けるなどして学びながら、ガイドのあり方について模索していた。

4. プロガイドの会結成

2018 年 6 月。プロとして食べている（あるいは食べようとしている）仲間が集まり会議。プロ意識を持った者同士が繋がり、互いに学んでいくことを目的に、「GeoBiz」（ジオツーリズム協会の前身）を結成。お客様に楽しんでいただけるよう、スキルアップを目指して学び合っていくことになった。2019 年も洞爺湖に集まり話し合いを進めたが、2020 年からはコロナの発生で対面からオンラインでの勉強会に切り替えざるを得なかった。

5. 2018 年 12 月 TORE との出会い

「理論に基づく インタープリテーショントレーニング」（共催：インタープリテーション協会、金沢大学）に 2 日間、参加して、プレ

ゼンやガイドが上手い人の共通点がわかった。これまで、モヤモヤしていた謎が TORE で解けた気がした。TORE は、誰でも考えられる基本となる理論なので、ガイドやガイド養成に携わる者が学べば、「自分で伸びていく力」となり、やがて全国のジオガイドが「楽しくて心に残るガイド」ができるようになるのでは、と考えた。

6. TORE トレーニング

島内ガイドのスキルアップ、島内ガイド育成、ジオパーク全国大会や、他地域のジオガイド養成講座など、さまざまな機会に TORE の紹介やトレーニングを実施した。

コロナ後の 2021 年 6 月からは、1 回 ¥1,000 の有料オンラインツアーを日本ジオツーリズム協会と世界仮想旅行社共催で実施。24 回目までに合計 2783 名参加。全国のジオパークから 30 名のガイドが登壇した。(オンラインツアーは今月で 30 回目となる)

ツアー後には、ツアーを TORE に沿って分析し、感想を述べ合う勉強会を継続した。

7. TORE の課題と効果

理論というだけで、難しく感じる人が多く、理論的な思考をする人でないと向かないかもしれない、という課題があった。何より、自分を磨き続けようと考えているプロでないと、TORE の必要性を感じないのではないかと感じていた。

だが、TORE を理解した人は、誰のアドバイスも受けなくても、説明が劇的にわかりやすく

なるという事例があった。

さらに、オンラインツアーを継続する中で、TOR の効果が明らかになった。TORE を元のリハーサルを重ねることで、全てのツアーが、わかりやすく、楽しく、伝わるものに変化していったのである。担当以外のガイドからのアドバイスも、TORE に沿って次第に的確になっていった。平均 2 回という多くはないリハーサルで、皆から出た意見を元に作品を作り直す時、ガイドを支えたのは TORE だった。長くプロとして活動しているガイドも、オンラインならではの構成にも苦勞したが、たくさんある素材の中から削ぎ落として構成する際に、自ら設定したテーマに立ち戻ることで、楽しいツアーに仕上げることに成功していた。

8. 厳しい指摘も理論で納得

最近オンラインツアーでガイドを務めた若いガイド (ガイド歴 2 年) は次のように語っている。「大事だと思ったのは、個人の考えを否定されているのではなく、テーマに沿っているかどうかの観点だということ。冷静な判断ができる気がしたし、他の人にも意見をいいやすい。自分が伝えたいことが山ほどあるのがガイドという職業。何をどの順番で言うか、はたまた言わないのかを見極めるスキルがあるのだということを感じた」この言葉を聞いて、TORE 理論に基づくトレーニングには、まさに、ガイドを育てる力があることを、確信した次第である。

9. 終わりに

TORE はガイドを支えてくれる、シンプルで

大切な理論だが、実践を通して初めて理解が進むものだと考えている。今後も理論と実践を繰り返しながら、ガイドのスキルアップを目指していきたい。

参考文献

サム・H・ハム著 山田菜緒子訳「インタープリテーション」山口書店